

北神けいろうの国政報告：11月号

いつも大変お世話になっています。

麻生総理大臣、解散を決められない本当の理由!!

麻生総理が、解散についてなかなか決断できないようです。タテマエは、世界恐慌が荒れ狂う中で、選挙をやっている場合ではない、ということです。しかし、本音は、今、選挙すると、自民党にとってきわめて厳しい結果になるということをおそれているのでしょう。

だいたい、今回の世界恐慌の震源地は米国です。ところが、日本よりも深刻な金融不安におそわれている米国でさえも、堂々と今月上旬に大統領選挙が行なわれます。しかも、大統領が決まってから、実際に就任するのは、二ヵ月後の来年の一月です。

日本も選挙をしたところで、麻生総理をはじめ、主要な大臣が選挙期間中しっかりと金融危機に対応すれば、まったく問題はありません。げんに麻生総理だって「選挙があろうとなかろうと、僕は国際会議に出席する」などと言っています。選挙中に国際会議に行く余裕があるのですから、国内の金融不安に対応していただくのは当然です。

選挙は、政局ではない!!

そもそも「政局より景気」という、もっともらしい言葉がまちがっています。「選挙=政局」「選挙=政治空白」ではありません。当たり前の話ですが、選挙は、今の政権が国民を向いて仕事をしているか、国民自身が判

断をし、実際に政治を動かせる、唯一の機会です。これを、政党間のケンカのようにとらえるのは、発想が貧しいとしかいいようがありません。

安倍総理が「お腹が痛い」と言って辞めてから、福田総理が決まるまでのひとつきは、たしかに「政治空白」でした。その福田総理が「しんどい」と言って職場放棄をしてから、麻生総理が決まるまでのひとつきも、「政治空白」でした。しかし、総選挙は、「政治空白」ではありません。

自民党の政治家たちは、言葉使いを正すべきです。

選挙により、金融危機に対応するための

強い政権を作るべし!!

今回の金融危機に対応するためには、強力な政治力がもとめられます。円高を是正するための大胆な為替介入や、株価暴落に歯止めをかけるために公的資金による買い支えも、検討しなければなりません。個別の金融機関に公的資金を注入することも、国民の批判があがる中、決断しなければならない局面もあるでしょう。

総選挙をして、民主党が勝利すれば、衆・参のねじれは解消します。今より、強力な政権運営が可能になります。逆に、自民党が勝利をすれば、いくら参議院で民主党が第一党であっても、国民の支持を得た麻生政権にたいして、偉そうなことを言えません。

強い政治力を発揮して、我が国の金融危機に力強く対応するためにも、麻生総理大臣は早く解散すべきです。